

# 「公共交通を活かした観光まちづくり」を進める地域人材の育成 まちと交通の未来づくりフォーラム 彦根フィールドワーク 開催報告

人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀（やさしい交通しが）

忠田季空

<https://yasashiikotsushiga.wixsite.com/machizukuri/about-4> /yasashii.kotsu.shiga@gmail.com

## はじめに

本活動は「人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀」が主催する「まちづくりと交通の広場しが 2025」の一環として「まちと交通の未来づくりフォーラム 彦根フィールドワーク」と題し開催した。

開催地の彦根市は彦根城を有す観光地であり、滋賀を代表する多数の企業や「近江鉄道」も本社を構える経済の地でもある。しかし、地方都市特有の車社会課題を抱える地域でもある。

本フィールドワークでは、官民産学連携にて地域住民が公共交通と観光をからめて考える機会を創出した。

## 1. 地域の課題と開催の趣旨

彦根市の地域問題でよく挙がるのが「観光渋滞」と「回遊性の不足」だ。市の観光統計では、年間来訪約 150 万人は 6 割以上が車での来訪であり、桜と紅葉のシーズンにはそれらが湖岸道路・名神高速道路・国道 8 号線の大動脈道路から彦根城に終結し大渋滞を起こす。しかし彦根城のみの来訪で短滞在時間・低観光消費額となり、これは「彦根観光 90 分問題」と呼ばれ、長きにわたり観光と生活のネックとなっている。

本活動はこれら交通と観光の課題をかけ合わせ考え、住民が「交通まちづくり」の意識を持ち、公共交通観光を提案できる「交通観光コンシェルジュ」人材を育成するために行った。

また考えるだけでなく、観光の車流入抑制・滞在時間と観光消費向上を目指し「公共交通で彦根エリアを巡る 2 泊 3 日の観光パンフレット

を作る」という形に残る成果を掲げ取り組んだ。

## 2. 内容

### (1) 全体構成とメンバー

本活動は観光と交通の現状を学ぶ座学・ワークショップ、実際に地域を巡るフィールドワーク、座学とプラン試行の全 3 回で構成した。

「やさしい交通しが」と地域住民に加え、彦根の魅力発信を行う「彦根市シティプロモーション戦略推進委員会（以下、彦根シティプロ）」や滋賀大学等学生、行政職員等が参加した。

### (2) 1 回目：「彦根の観光と公共交通を知ろう」（9 月 7 日）

座学形式の前半とワークショップ形式の後半で、前半では日本鉄道マーケティング代表の山田和昭による交通まちづくりと観光のポイント、彦根地域振興を行う On Your Mark 代表の忠田季空による彦根・滋賀の観光の現状と昨今の観光トレンドとポイント、彦根シティプロから活動紹介と「彦根の魅力」の講演を行った。

後半は特大の地図に彦根エリアの魅力スポットと公共交通路線を皆で書き込み把握し、一日観光プランを検討した。全体を通じて彦根と周辺地域が持つ魅力と、それらを公共交通で繋ぐことの可能性と面白さを共有した。



地図を使い一日観光プランを発表する様子

### (3) 2 回目：「実際に乗ってあちこちめぐってみよう」（9月21日）

彦根シティプロが有する見識に基づいたまちあるきプランを考えフィールドワークを行った。

元滋賀県立大学副学長、NPO 法人彦根景観フォーラム理事長の濱崎一志と彦根市役所世界遺産登録推進室職員の鈴木達也がガイドを担い、歴史・文化的知見による案内のもと、徒歩と近江鉄道で彦根市内と沿線地域を巡った。

地域や街並みが持つ魅力再発見への驚きと、これまでの「彦根城しかない」イメージを払拭する手ごたえを感じる声が多く挙がった。また、まちなかの車交通の多さが、歩いて楽しむ観光を阻害していることに多くの参加者が気づいた。



総勢 20 名以上で彦根城下町を街歩きする様子

### ・(4) 3 回目：「作った観光プランを実施してみよう」（11月23日）

冒頭の座学ではパンフレット作成の進捗説明とおおつ交通まちづくり推進会の畑中則宏が彦根の交通まちづくり提案の講演を行った。後半は彦根駅からバスで移動し、パンフレットで紹介予定の観光地で班を分けて近江鉄道沿線の各エリアを巡った。この際、パンフレット写真を撮影するミッションを設け、併せてパンフレットに欲しい情報と公共交通の問題点を考えた。

パンフレット掲載情報への要望だけでなく、実際に「使う」事を想定した公共交通への意見を各々が持ち、どうすれば使い易いかという自身のまちの公共交通を意識する機会となった。

## 3. 成果

この機会ですべて、または久しぶりに公共交

通を使った参加者も多かった。観光客の立場に立つことで、まちなかの車の多さの問題を感じ、公共交通が意外と使えて良さもあることを、地域住民が発見する機会となった。

フィードバックでは「彦根とその周辺にこれほど魅力があると思わなかった」「予想と違い2泊3日でも足りない」といった前向きな意見の一方で、「公共交通で行こうと思わせる更なる工夫が必要」という課題も挙げられた。

また、見える成果として本フィールドワークを通じ作成した観光パンフレットは実際に印刷・配布する。3回の活動以後も彦根シティプロや学生が作成を進め、2026年度の桜観光に合わせ、配布とメディアでの紹介を予定している。

## 4. おわりに

「生活も観光も車が必須」は彦根の当たり前であり、渋滞の不便さ・観光恩恵の無さを感じ、車が減れば、もう少し巡ってほしいと思いつつ、今のクルマ中心社会の在り方を否定できない。

私は彦根に住む中でこれを勿体ないと感じ「公共交通」×「観光」を考えるに至ったが、これは「交通まちづくり活動」に出会い、当たり前以外を知る事に恵まれたただけだ。つまり重要なのは、地域の人々が知り、新たな可能性を皆で考え行動する事であり、今回の参加者からは今後の彦根まちづくりの意気込みやアイデアを聞くこともできた。知ることで活動に踏み出したことが本活動の最も大きな成果と言える。

現在滋賀県では県民への周知が不十分な中、「交通税」の議論が進められているが、これを周囲に話した時に返ってくるのは怒りの他に「こうすれば」というアイデアだ。もし多くの人が知れば更に良いアイデアは生まれると惜しく思う。皆で地域の在り方を考えない状態は全国で同じと思うが、どうすれば知ってもらえるかを考えるのが今後のまちづくりの命題だ。